

おいしさ、けんこう、
つぎつぎ、わくわく。))



2021年3月期 第2四半期
決算説明会資料
(2020年4月1日～2020年9月30日)

2020年11月12日

フジッコ株式会社 (2908)

<https://www.fujicco.co.jp/>

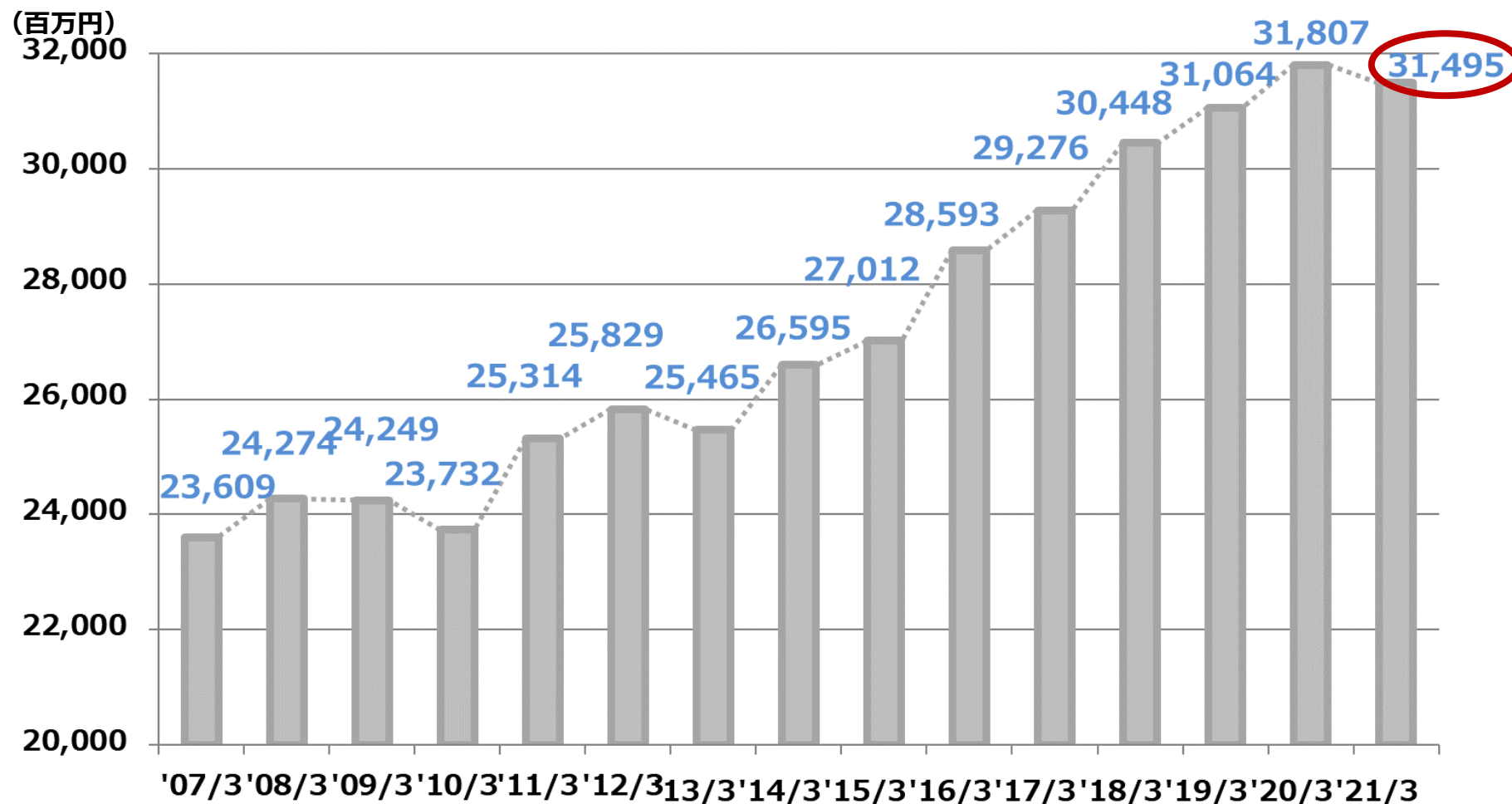
2020年度上半期トピックス

代表取締役社長

福井 正一

売上高は減収 ～ '13/3期2Q以来の減収 ～

第2四半期累計期間 連結売上高の推移



売上高	23,609	24,274	24,249	23,732	25,314	25,829	25,465	26,595	27,012	28,593	29,276	30,448	31,064	31,807	31,495
[前期比]	100.9%	102.8%	99.9%	97.9%	106.7%	102.0%	98.6%	104.4%	101.6%	105.9%	102.4%	104.0%	102.0%	102.4%	99.0%

プラス作用

- ◎ 「巣ごもり」による内食需要拡大
主力のスーパーチャネルが前年実績を上回る
シェアの高い煮豆、佃煮の動きが堅調
- ◎ 免疫効果
カスピ海ヨーグルトの動きが好調
- ◎ 通信販売事業が好調

マイナス作用

- ◎ 主力の「ふじっ子煮しそ昆布」等の一時休売
- ◎ 日配惣菜の前年割れ
- ◎ 外食需要の低迷による業務用チャネルの苦戦
- ◎ 百貨店臨時休業
フーズパレット社 百貨店直販の売上不振
味富士株式会社の解散（2020年9月30日）

「大豆で作ったヨーグルト」 TVCM放映

近畿圏 9月10日～9月30日

首都圏 10月1日～10月20日



バラエティ化が進むおばんざい小鉢

和惣菜 7品



深型 3品



サラダ 4品



コロナ禍の再び成長の芽として



お口の善玉菌
「デンタフローラ」



黒酢黒大豆
「クロクロ」

「ふじっ子煮」発売50周年リニューアル

*2020年9月より

「日本の良さ」「新しさ」を表現

- ・手ぬぐい風の文様柄
- ・自然で安心感のあるアースカラー



開発当初
1971年



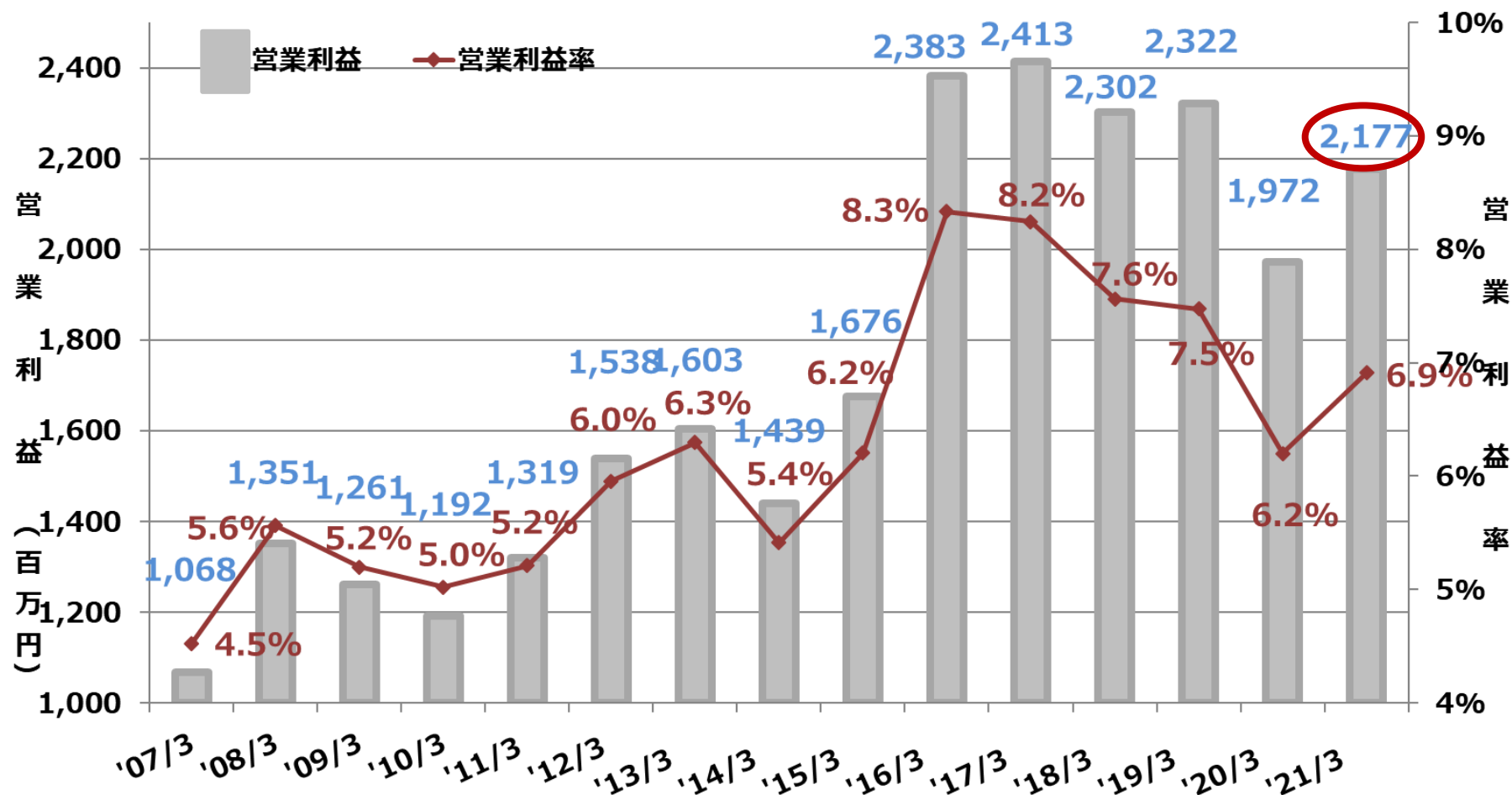
パチっと!カップ採用
2010年



2020年

営業利益は増益 ～ 再び20億円台へ ～

第2四半期累計期間 営業利益・営業利益率の推移



よかった点

- ◎ 営業利益、経常利益、四半期純利益いずれも増益
- ◎ 売上原価率の改善
- ◎ 「おばんざい小鉢」「カスピ海ヨーグルト」の成長が継続

悪かった点

- ◎ 第2四半期では2013年3月期以来の減収
- ◎ 新型コロナウイルスの感染拡大による影響
 - 日配惣菜の販売不振
 - 業務用チャネル、百貨店チャネルの不振

構造改革「新しい会社づくり」

生産性を高め、仕事の質を高め、経営の品質を高める

1	SKU削減の取り組み	・品目の整理 ・購入資材の整理 ・日常業務の整理
2	豆と昆布の収益性改善	・生産統合による合理化の推進
3	新規事業の育成	・大豆ヨーグルトの育成
4	“ポスト・コロナ”の事業戦略見直し	・EC通販 ・海外 ・M&A

関東工場新棟 2021年3月完工予定



2020年度 上期決算概要と通期業績の見通し

常務取締役

山田 勝重

上期決算概要

連結損益計算書（前年同四半期比）

	2020/3期第2Q		2021/3期第2Q		増減額
	百万円	%	百万円	%	
売上高	31,807	100.0	31,495	100.0	△311
売上原価	18,932	59.5	18,510	58.8	△421
売上総利益	12,875	40.5	12,985	41.2	109
販売費及び一般管理費	10,902	34.3	10,808	34.3	△94
営業利益	1,972	6.2	2,177	6.9	204
営業外損益	176	0.6	192	0.6	16
経常利益	2,148	6.8	2,369	7.5	221
特別損益	△128	△0.4	0	0.0	129
税引前利益	2,020	6.4	2,370	7.5	350
四半期純利益	1,361	4.3	1,607	5.1	246
1株当り純利益 [潜在株式調整後]	45円48銭 [45円45銭]		53円68銭 [－]		8円20銭 [－]

※ 四半期純利益は、親会社株主に帰属する四半期純利益になります。

売上高は減収

営業利益、経常利益、当期純利益いずれも増益

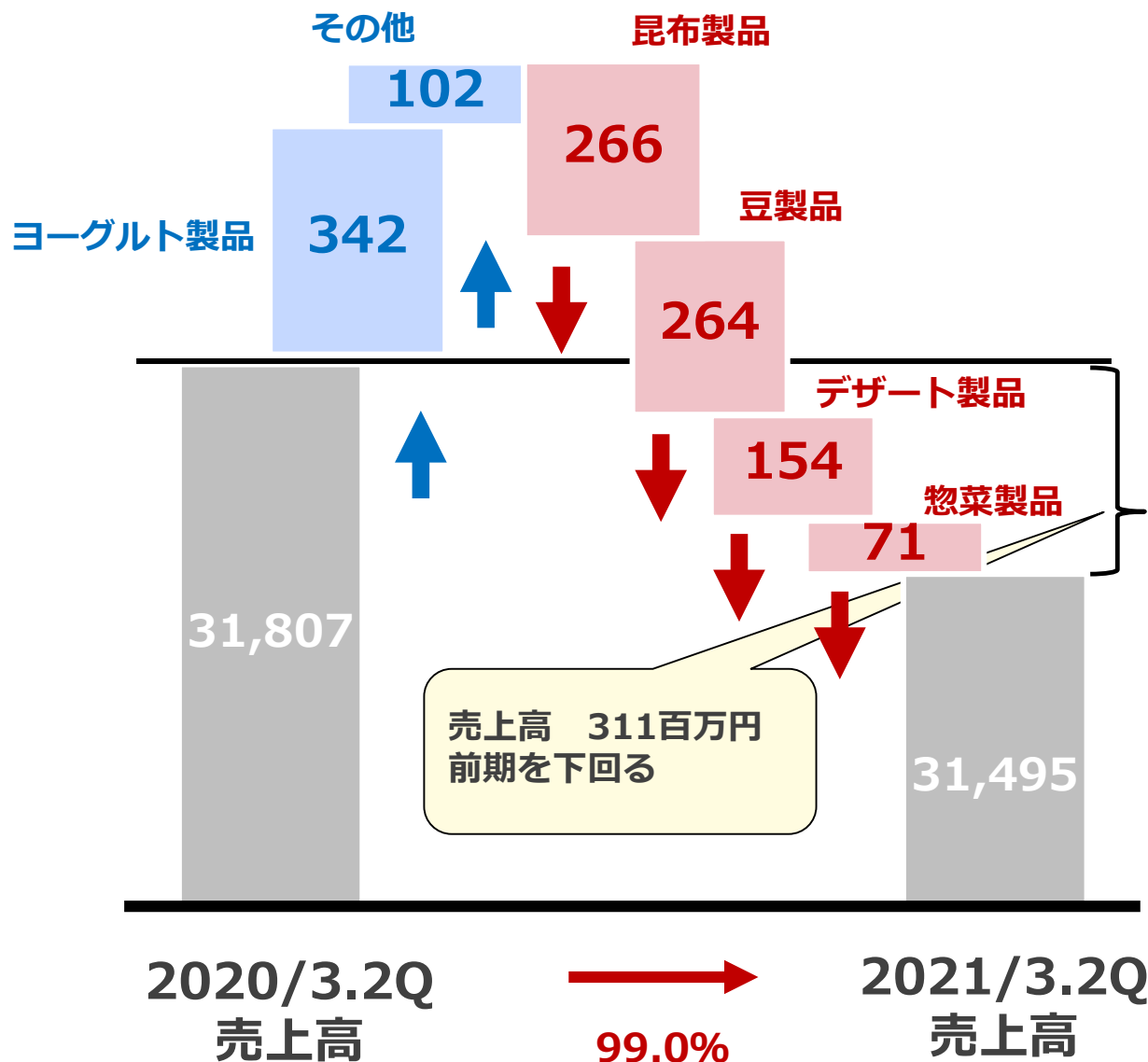
- ◎ 売上高は311百万円の減収
- ◎ 売上原価率は58.8%、前期より0.7ポイントの改善
- ◎ 販管費率は34.3%、前期と同じ
- ◎ その結果、営業利益は204百万円の増益、
営業利益率は6.9%と前期より0.7ポイントの改善
- ◎ 経常利益は221百万円の増益
- ◎ 四半期純利益は246百万円の増益
- ◎ 1株当たり当期純利益は53円68銭、前期より8円20銭の増加

連結製品分類別売上高（第2四半期累計期間）

（百万円）	前期 実績	構成比 %	当期 実績	構成比 %	前期差	前期比 %
惣 菜 製 品	10,700	33.6	10,629	33.7	△71	99.3
昆 布 製 品	8,555	26.9	8,289	26.3	△266	96.9
豆 製 品	6,332	19.9	6,067	19.3	△264	95.8
ヨーグルト製品	3,495	11.0	3,837	12.2	342	109.8
デザート製品	1,889	5.9	1,735	5.5	△154	91.8
そ の 他 製 品	833	2.6	935	3.0	102	112.3
合 計	31,807	100.0	31,495	100.0	△311	99.0

売上高の増減要因分析（前年同四半期比）

単位：百万円



【総括】

ヨーグルト製品が前期より上回ったが、昆布製品、豆製品、デザート製品、惣菜製品が下回ったことから、全体では311百万円下回った。

【増加要因に対するコメント】

ヨーグルト製品では、「カスピ海ヨーグルト」の伸長、「大豆ヨーグルト」がプラスオン。

【減少要因に対するコメント】

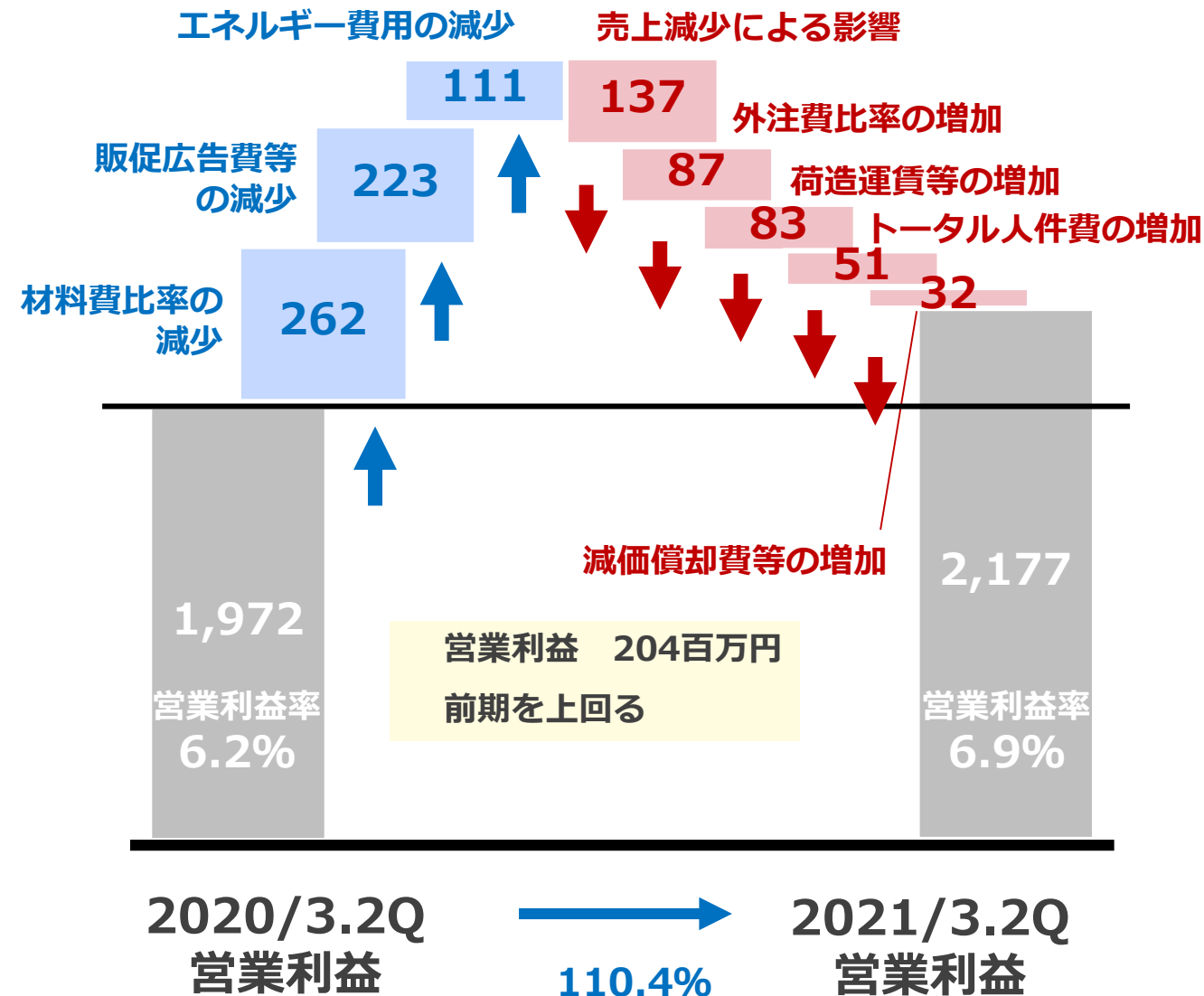
昆布製品では、佃煮、塩こんぶ、とろろ昆布ともに前年割れ。

豆製品では、煮豆は健闘も、水煮・蒸し豆が大きく前年割れ。

惣菜製品では、フーズパレット社の売上加わるも、日配惣菜が大きく前年割れ。

営業利益の増減要因分析（前年同四半期比）

単位：百万円

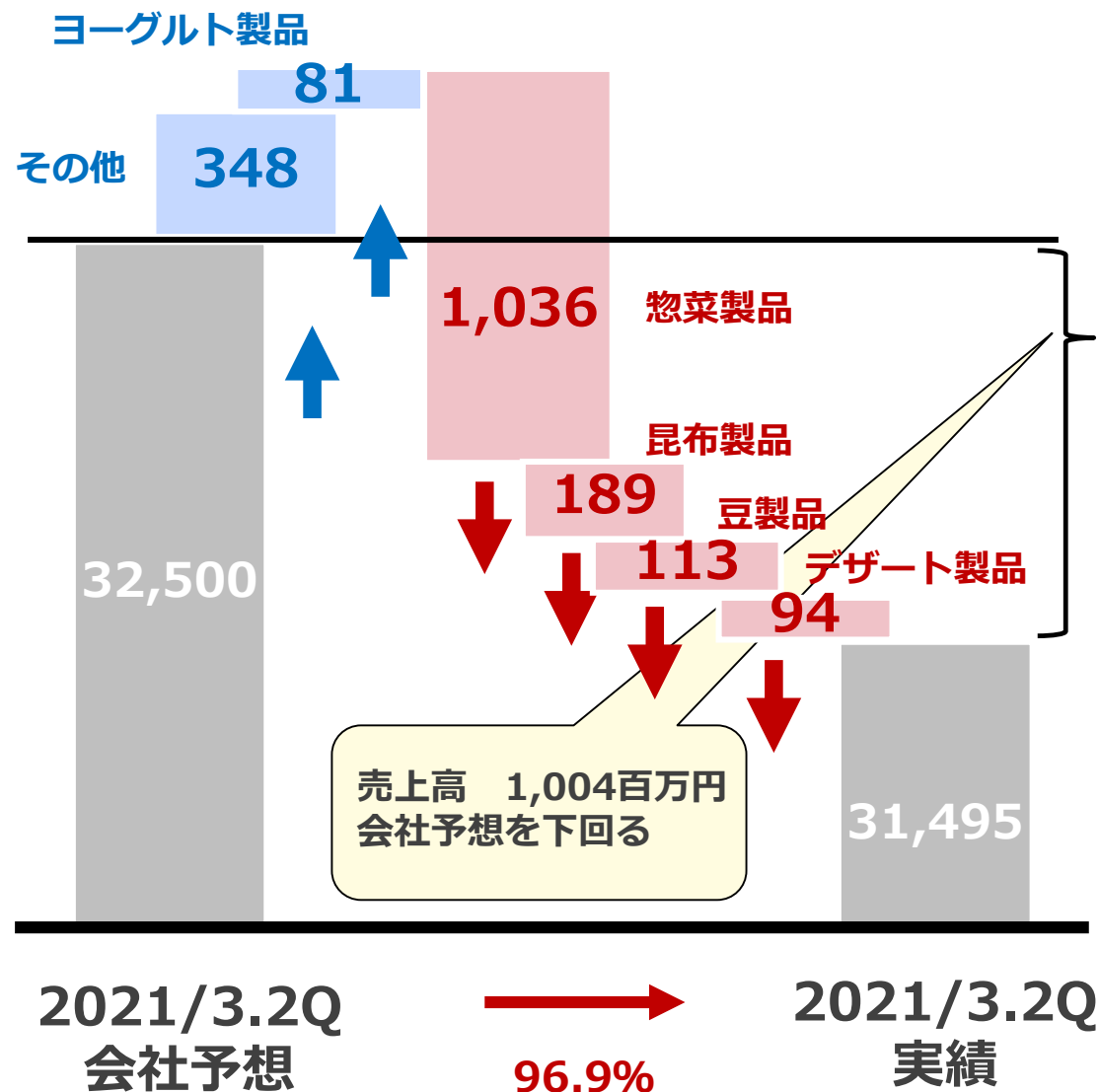


【総括】

- 売上高は減収も、営業利益は大きく増益。
- 外注費、荷造運賃、人件費（フーズパレット社）、減価償却費等は増加した。
- 日配惣菜の販売不振、「おかず畑ミニ」の終売等による野菜原料の使用量が減少し材料費比率が減少、TVCM延期による販促広告費の繰り延べ、原油価格の値下がりによりエネルギー費用等が減少した。

売上高の増減要因分析（会社予想との比較）

単位：百万円



【総括】

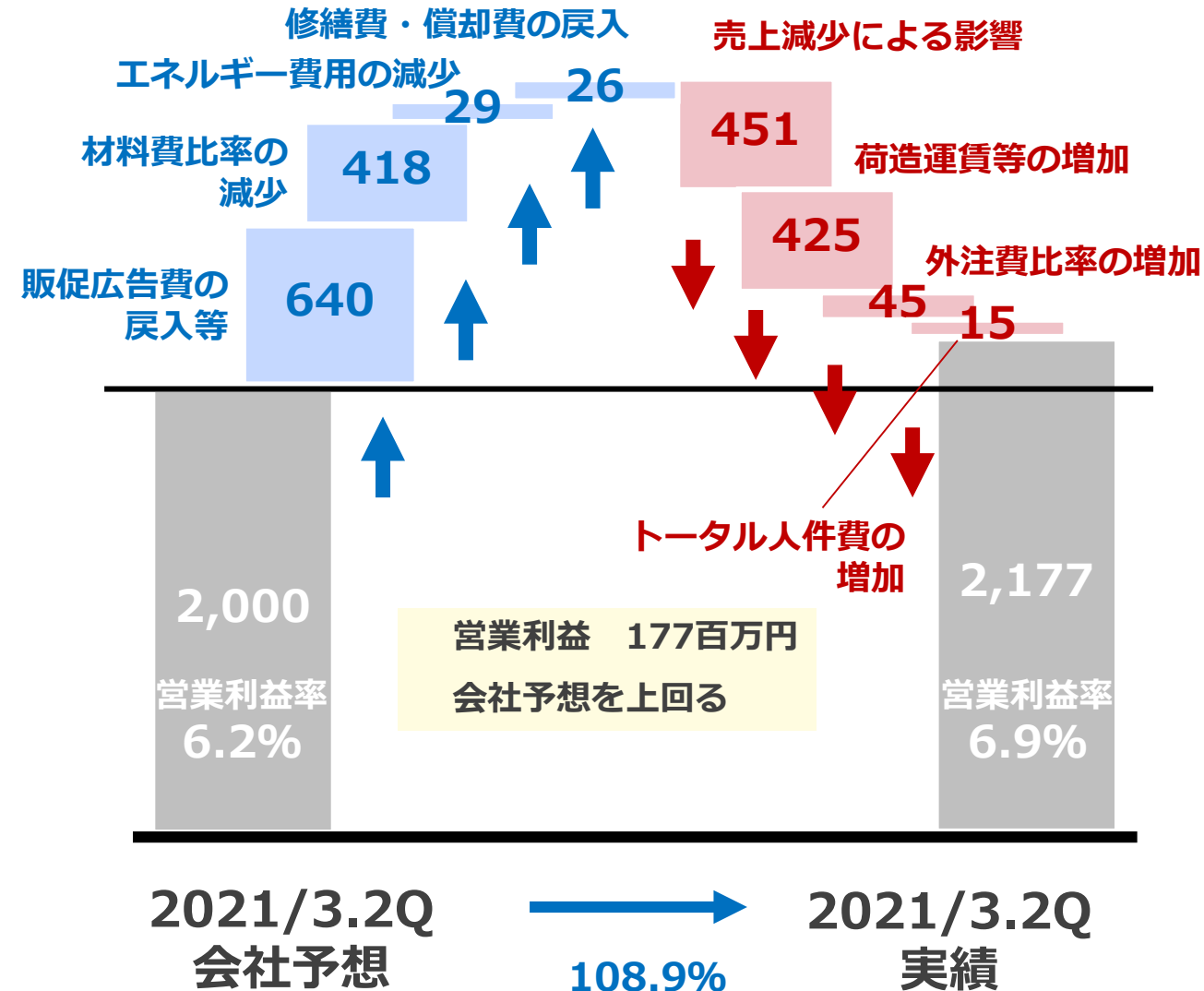
その他製品（通販）、ヨーグルト製品が会社予想を上回った。

惣菜製品（フーズパレット社、日配惣菜）、昆布製品（塩こんぶ）、豆製品（水煮・蒸し豆）、デザート製品（フルーツセラピー）が会社予想を下回った。

売上高は会社予想より1,004百万円下回った。

営業利益の増減要因分析（会社予想との比較）

単位：百万円



【総括】

- 売上高は減収も、営業利益は大きく会社予想を上回った。
- 荷造運賃、外注費等は会社予想より超過した。
- TVCM延期による販促広告費の繰り延べ、野菜原料の使用量が減少し材料費比率が会社予想より収束したことが大きかった。

四半期会計期間の売上高・営業利益の増減推移（前期比）

(単位：百万円)		売上高	営業利益	営業利益率
第 1 Q (4 - 6月)	前第 1 Q	15,563	936	6.0%
	実績	15,487	958	6.2%
	増減	△75	+22	－
	前同四半期比	99.5%	102.4%	－
第 2 Q (7 - 9月)	前第 2 Q	16,243	1,036	6.4%
	実績	16,008	1,218	7.6%
	増減	△235	+182	－
	前同四半期比	98.5%	117.6%	－
累計 (4 - 9月)	前期	31,807	1,972	6.2%
	実績	31,495	2,177	6.9%
	増減	△311	+204	－
	前同四半期比	99.0%	110.4%	－

通期業績の見通し

TVCM放映計画*

品群	9月	10月	11月	12月	1月	2月
塩こんぶ		↔	↔			
佃煮		↔	↔			
豆小鉢					↔	
おぼんざい小鉢	↔		↔			
カスピ海YG			↔		↔	
大豆YG	↔	↔				
おせち				↔		

* 放映エリアごとに放映期間が設定されております。（全国一斉ではございません。）
現時点の放映予定であり、実際の放映期間等に変更が生じる場合がございます。

「丹波黒黒豆」TVCM放映エリア拡大

12月25日～12月31日

北海道、岩手、宮城、福島、首都圏、新潟、長野、石川、静岡、中京、
近畿、広島、岡山、香川、福岡の全国主要都市



連結製品分類別売上高

(単位：百万円)	2020/3 実績	構成比 %	2021/3 期初予想	構成比 %	前期差	設定率
惣 菜 製 品	22,684	34.3	24,088	36.0	1,403	106.2%
昆 布 製 品	18,060	27.3	17,758	26.5	△301	98.3%
豆 製 品	13,767	20.8	13,270	19.8	△496	96.4%
ヨーグルト製品	6,907	10.4	7,377	11.0	470	106.8%
デザート製品	3,165	4.8	3,056	4.6	△109	96.6%
そ の 他 製 品	1,586	2.4	1,448	2.2	△138	91.3%
合 計	66,171	100.0	67,000	100.0	828	101.3%

取り組み方針

- 惣菜製品 : 「おばんざい小鉢」の販売拡大、日配惣菜の収益性向上
- 昆布製品 : リニューアル「ふじっ子煮」(佃煮)の拡販
- 豆製品 : 丹波黒黒豆の売り込み、関東工場新棟の成功(生産合理化)
- ヨーグルト製品 : 「大豆で作ったヨーグルト」の育成
- デザート製品 : 期間限定商品の投入

連結業績予想（期初）

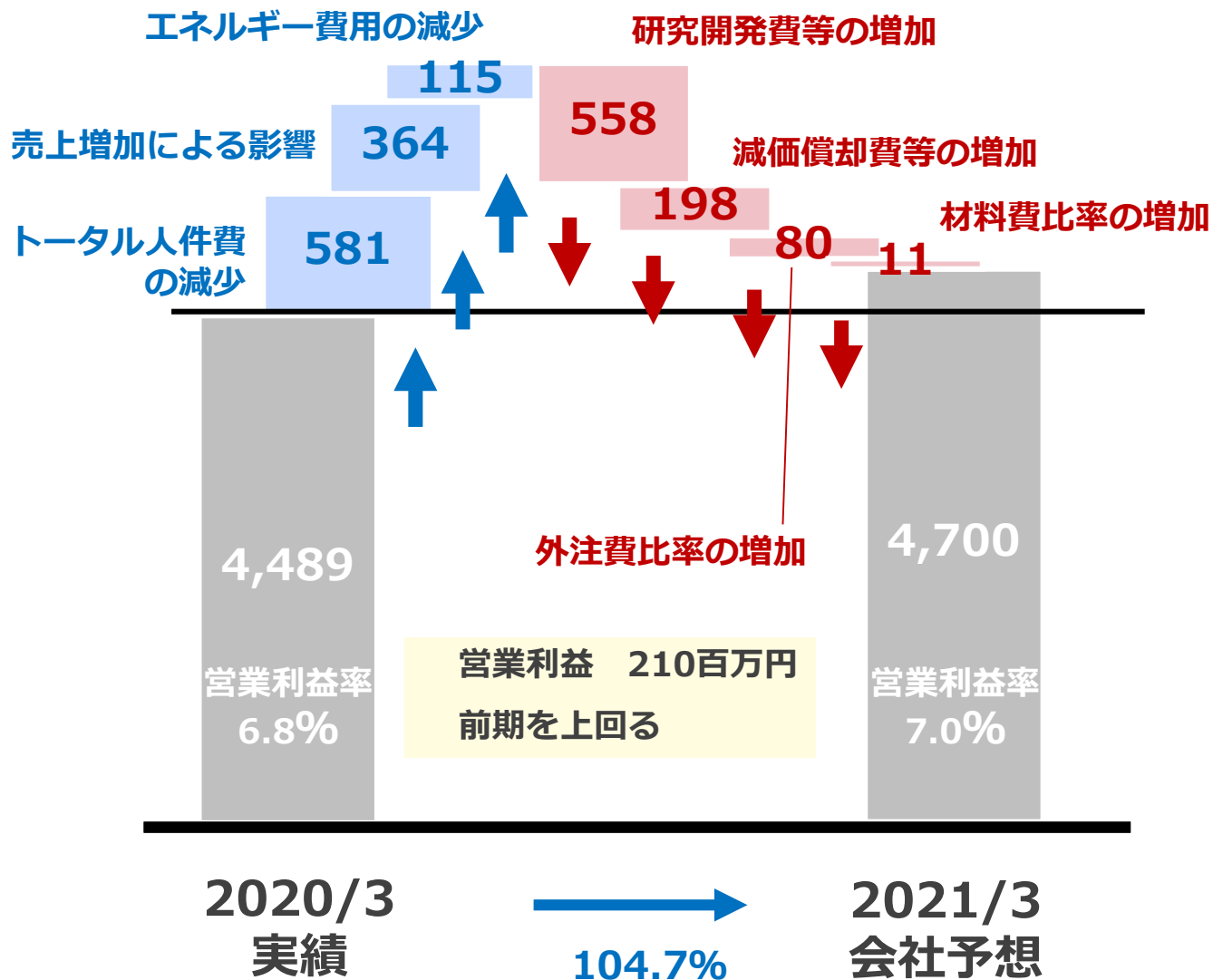
	2020/3期		2021/3期予想		増減額
	百万円	%	百万円	%	
売上高	66,171	100.0	67,000	100.0	828
売上原価	39,691	60.0	39,555	59.0	△136
売上総利益	26,480	40.0	27,445	41.0	964
販売費及び一般管理費	21,991	33.2	22,745	33.9	753
営業利益	4,489	6.8	4,700	7.0	210
営業外損益	349	0.5	300	0.4	△49
経常利益	4,838	7.3	5,000	7.5	161
特別損益	△16	△0.0	—	—	16
税引前利益	4,821	7.3	5,000	7.5	178
当期純利益*	3,100	4.7	3,500	5.2	399
1株当り当期純利益	103円58銭		116円86銭		13円28銭

1株当り配当金	40円（中間19円）	40円（中間20円）	±0
---------	------------	------------	----

* 当期純利益は、親会社株主に帰属する当期純利益。

営業利益の増減要因分析

単位：百万円



【ポイント】

営業利益47億円の実現に向けて

① 増収への取り組み

- ・ 利益重視の販売継続

② FCR運動の推進

- ・ 生産性の向上
- ・ 固定費の削減

③ 販管費率の改善

- ・ トータル物流費の低減

この資料には、当社の現在の業績見通しなどが含まれております。それら将来の予想数値などは、現在入手可能な情報をもとに、当社が予測したものであります。実際の業績などは、今後の様々な条件・要素によりこの予想などとは異なる場合があります、この資料はその実現を確約したり、保証するものではありません。

～ お問合せ先 ～

経営企画部 酒巻・尾西まで

T E L 078-303-5921

F A X 078-303-5949